

2023 COLLOQUIUM SERIES

Research Center for Language, Brain and Cognition
Graduate School of International Cultural Studies, Tohoku University

ジュディ クルー (Dr Judit Kroo)
アリゾナ州立大学

2023年7月26日(水), 16:15 - 17:30 JST 東北
大学川内北キャンパス
マルチメディア教育・研究棟 M304 室



Discourse Re-framing (談話リフレーミング) と 社会的意味の変化：若者の言葉遣いを通して

現在の日本の若者は、社会的プレカリティ（不安定な状況）を迎え、正社員や家族構築など当たり前だと思われたソーシャルプラクティス（社会的実践）から疎外されている傾向がある。本トークでは、若者達はこの不安な社会情勢をどの様にやり過ごし、「グッド・ライフ」（Berlant, 2011）が提示するディスコースをどうやって作り直すのかを社会言語学・語用論・人類言語学の立場から明らかにする。そのためにDiscourse (re)-framingという分析フレームワークを紹介し、このフレームワークで言語的相互作用を解釈する。Discourse (Re)-framingは、言語要素の社会的指標性（socio-indexicality）の変化の過程を表し言語要素の再フレーム化（re-framing）をリアルタイムで捉える分析フレームワークであり、言語的变化と社会的変化の繋がりを明らかにする。分析するデータは、横浜市の外にある私立大学での長期的民俗誌と大学生の日常会話のコーパスである。本トークの目標は、区別された研究分野、社会言語学・語用論・人類学との深い関係と学際的視点の重要性を明らかにすることである。

Selected papers:

- (2023). Gendering Desire: The use of Korean *ya 'hey'* in popular media to construct masculine and feminine styles. *East Asian Pragmatics*. 8(2), 167-192. <https://doi.org/10.1558/eap.22131>.
- (2023). Remaking *futsuu* 'ordinary' in the discourse of younger Japanese adults. *Language and Communication*. 88, 129 - 140. <https://doi.org/10.1016/j.langcom.2022.11.007>
- (2022). The Cultural Logic of the Ordinary: Interactional Semiosis and the (Re)-Framing of Daily Life among Japanese Younger Adults. *Journal of Linguistic Anthropology*. 32(2), 386-407. <https://doi.org/10.1111/jola.12366>.
- (2022). Negotiating gendered identities: First person pronominal use between Japanese university students. *Pragmatics and Society*, 13(1), 23 - 45. <https://doi.org/10.1075/ps.18061.kro/>.
- (2021). Discourse (Re)-framing: narratives of adulthood in contemporary Japan. *Language, Culture and Society*, 3(1), 82 - 106. <https://doi.org/10.1075/lcs.19017.kro>.

Bio: Judit Krooは米国スタンフォード大学で言語学博士号を取得、現在アリゾナ州立大学で言語学と比較文化研究を専門とするAssistant Professor（助教）として研究・教育活動を行っている。研究の焦点は言葉遣いと社会構造の関係で、それを捉えるためにDiscourse (Re)-framing という分析フレームワークを構築した。Judit Krooは社会言語学、語用論と人類学の学際的研究方法を用い、日本と韓国における若者の言葉遣いと社会の不安定について探究している。現在の主要な研究プロジェクトとして、災害、移住と新しい言語的なコミュニティの発展という現象に取り組んでいる。